

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800246		
法人名	社会医療法人 正光会		
事業所名	グループホームさくら 2号館		
所在地	島根県益田市高津四丁目26番29号		
自己評価作成日	令和3年1月17日	評価結果市町村受理日	令和3年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](http://2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和3年2月13日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

加齢に伴い、心身の機能低下は徐々に進んでいるが、利用者、家族の思いに寄り添いながら、個別なかかわりを行っている。生活の中で、利用者のできる部分に目を向け、できることを一緒に行い達成感、満足感を得ていただいている。家族の一員として、役割を持って生活していただけるよう支援している。また、母体が医療法人であり、常に医療との連携が取れる体制を整え、利用者、家族に安心していただいている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度4月に開設し、体操や季節の行事は「さくら」と合同で行い、「よう来たね」「ここ座りんさい」など声を掛け合う場面がある。職員は利用者一人ひとりに合った役割を大切に、「今できること」に着目しそれを活かし満足感や達成感につなげられるよう支援している。法人として認知症の知識や介護などの講演会を実施し、施設見学の希望者があり地域で必要とされる事業所として積極的に取り組んでいる。コロナ禍の中、人混みを避け法人の「さんさん牧場」に行き馬や小動物に触ったり餌をやるなど癒せる場を作っている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は施設内に掲示し、常に職員が意識できるよう努めている。ケア会議などで日々のケアを振り返り理念に沿った実践に繋げている。	4月に増設し、施設内でのスタッフの異動や新人職員の受け入れに当たり理念や方針を説明し話し合い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧のやり取り、ゴミ出し、朝夕の挨拶など、地域の一員として交流している。ゴミ出しでは、地域の方からのご指導を頂くこともある。	地域の催しの空港マラソン大会の応援に出かけたり、地域の子供神楽などボランティアの来訪がある。近所の人から日中一人で外出していた利用者の情報を受けるなど協力も得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや、施設見学、中学生の職場体験などの受入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市担当者、家族、地域の方を交え話し合いで出た意見はケアに取り入れている。新型コロナウイルスの対応として書面での報告、意見照会を行った。(5、7、9月)	コロナ禍の中、書面で利用者の状況や取り組みを報告し意見や助言を得てサービス向上に活かしている。利用者の所在確認の指摘に対して確認担当の記入欄を日誌に設け改善につなげた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等を通じ施設の様子や取り組みを伝えていくよう努めている。	困難事例など利用者の状況を積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の研修には全員が参加し知識を深めている。危険防止の兼ね合いで悩む場面もあるが、スタッフ間でカンファレンスを持ち、改善策を模索し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	年に2回、法人での必須研修があり全員参加し、具体的な行為を理解している。夜間離設された時は法人事務直への応援依頼・職員招集など法人との協力体制がとられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種の研修会に参加し、知識を深めてスタッフ間で共有している。声掛けの言葉にも気を付け、また、気になる事は伝え合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で知識を得るよう努めている。制度を活用する事例はなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり時間をかけて説明を行い、適宜理解度を確認しながら進めている。一方的なものにならないよう家族の意見も聞くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やプランの説明、面会時等、積極的に意見を伺うよう努め、またそれをスタッフ間で共有しケアや運営に反映させている。	面会時、電話、運営推進会議などで意見・要望を聞くように努めている。たよりで日頃の様子や取り組みを伝え担当職員も一言添えている。クリスマス会などの行事には案内を出し家族同士の交流場面がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務中やスタッフ会議で意見を出し合い、法人とも連携し反映、改善に努めている。	キャリア、正職、パートによらずみんなで意見を出し合い、気づきは利用者の立場で検討し改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間管理表により超過勤務の実態把握に努めている。また、人事考課の面接を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人及び地域の研修予定について掲示し積極的に参加できるよう働きかけている。新入職員についてはOJTを取り入れ皆で支える姿勢がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や圏域グループホームの研修や交流会に参加し情報交換をしている。得た情報はスタッフ間で共有するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の過ごされている場で話しを聞く機会を持ち、言葉に耳を傾けている。言語的に十分思いを伝えられない場合も表情や仕草から思いを引き出せるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ゆっくり話を聞き、それまでの心配や苦勞された事に共感的態度で接することで関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「サービスありき」にならないように本人、家族の思いを尊重するよう努めている。その上で法人PSWや地域CMとも連携して支援の優先度を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての敬意をもって接するよう心がけている。家事や作業などを共に行った場合には感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を適宜伝え、家族だからできることを実践できるよう働きかけている。また、その後の本人の様子などを伝え、家族のつながりが保てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後年数が経ったことやコロナ禍の影響で難しい面もあるが、可能な限り行きつけの美容室の利用や買い物などを行えるよう工夫している。	家族や住んでいた地域のことを頻繁に話題にし関係の継続に努めている。「さくら」との関係で馴染みの人との出会いもある。法人の方針のもとに可能な形で面会の機会を持つようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一緒にゆっくりできる場があり、場の共有が出来ている。その中で利用者同士の距離に注意し、トラブルの防止にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は生活状況を詳しく情報提供している。また、家族と連絡を取り、病状の把握に努めると共に、本人、家族の精神的苦痛を和らげるような言葉かけをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的な日課には沿うが、出来るだけ本人のペースに合わせた生活が出来よう努めている。	言葉、表情、仕草など観察し思いの把握に努めている。お茶の時間などゆっくり関わり思いを聞いたり、殆ど発語のない人から失敗なく排泄ができた時笑顔で「うれしい」など聞けた時は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式により生活歴の把握に努めている。また、担当スタッフが個別に対応策を考えた場合や、得た情報もスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できること、できないことの状態や変化を細やかに観察し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人は意向を十分伝えられないケースが多いが、日々の観察を通し把握に努めている。家族からは面会時や諸連絡の機会を通して意向を伺うようにしている。担当スタッフを中心に本人、家族の思いを踏まえた介護計画立案に努めている。	利用者の思いやできることの継続、家族の意向などを反映させ、担当職員を中心に介護計画を作成している。入居前に通院していたデイケアの友達に会いたいという希望に合わせ通院を継続している人もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別ファイルに生活リズム・パターンシート、経過記録を綴じ、誰でもいつでも記入、確認ができるようにしている。そこでの気づきをケアに反映するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢化、身体機能の低下などにより受診時の送迎や訪問診療の導入などを検討、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、地域へ出ていくことが難しい状況ではあるが、法人内の牧場、喫茶、売店などを活用し気分転換や、できる能力を発揮できるよう工夫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の病院、協力医との協力体制が整っている。また、入居時、緊急時の搬送先について確認し、希望に沿うようにしている。	受診時の移動や待ち時間の負担が大きいため、法人内の病院や協力医の内科による訪問診療を実施するようになった。入居前からの受診を継続している人は事前に病院に情報を伝え共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配属されており、介護職と連携しケアを実施している。特に、身体面の変調については医師への報告、受診手配等に繋がっている。訪問診療時は、情報提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、情報提供をしている。また、地域連携室等とも連携して退院後を見据え家族とも意向確認を含め連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の変化を適宜家族に伝え、その中から重度化(終末期)への思いを把握している。医師、家族と話し合いの場を持ち、施設内でできること、できないことを伝えながら家族の支援に取り組んだ。	状況変化に合わせて家族に意向の確認を行い、事業所でできることを家族、医師、関係者と話し合い支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応の訓練に参加し、知識、実践力を高めるよう努めている。夜間急変時には病院管理当直へのコール体制がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練を実施し、1回は消防職員の協力を得て指導を受けている。消火器使用の訓練を行っている。災害時には法人内施設との応援体制を整えている。	定期的に防火訓練を行い消防署員からの夜間の対応方法に関して助言を受けて改善につなげている。毎月自主点検表で安全確認を行い、電気製品の正しい使用を心掛け火災を起こさないように注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しさの中にも敬意を待った声かけをするよう心がけている。ケア時は周囲に配慮し、プライバシーを確保して対応している。	利用者の自尊心に配慮した声かけやケアを心がけている。排泄の失敗を周りに知らせないように、さりげなく誘導や介助をし速やかに交換するように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的にならないよう、本人に確認して実施するようにしている。十分意思表示できない場合もその機会は保つように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、本人のペースを大切にして過ごせるようにしている。レクリエーション活動などの声かけは無理強くないように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、髭剃りなどを、本人の能力に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	心身の機能的に調理は難しいが、盛り付けや片付けは個々の能力に合わせ共に実施している。イベント時の行事食やお菓子作りを取り入れている。	本人の握力や麻痺の有無に応じた器の重さ、形など工夫している。季節行事に合わせたメニューや敬老会の際にはお祝御膳、ノンアルコールビールで楽しめるようにしている。職員も一緒に食べて味など話題にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活リズム・パターンシートを用い食事摂取量、水分摂取量を把握している。食べやすい形態、食器類の工夫をしている。栄養士による栄養管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の能力に応じた口腔ケアを実施し、また口腔内の状態を観察している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活リズム・パターンシートを用い排泄の誘導を行いなるべくトイレで排泄できるように支援している。失敗時は、自尊心に配慮し速やかに交換するよう心がけている。	ほとんどの人が自分でできるが、訴えのある人にはトイレで排泄できるように対応し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し、水分や食事摂取の支援、緩下剤・下剤の使用の検討を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日の入浴にしているが本人の希望やペースに合わせている。着替えの準備を一緒に行うなど個々に合わせた対応を行っている。また、身体機能に合わせ介護浴槽と個浴を使い分けている。	湯の温度、湯につかる時間など体調や希望に合わせて対応している。冬至には職員が家から柚子を持参し柚子風呂を楽しんでいる。入浴は一人ずつ、ゆっくり入れるように順番や時間を調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝は基本的に本人のペースに合わせている。日中でも本人のペースで休息を取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用中の薬剤は薬剤名、効能をファイリングして確認できるようになっている。変更時は情報を共有し、副作用等の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業等、本人の能力に合わせ役割を担っていただいている。手作業など本人の好きなことを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体機能、歩行機能の低下が進んでおり、コロナ禍もあって希望通りには難しいが、散歩、ドライブ、庭でのお茶会などを企画し実施している。	天気が良い日には庭にテーブルと椅子をセットしお茶、おやつを食べながら歌をうたうなど戸外で楽しんでいる。ドライブや、人混みを避け法人の「さんさん牧場」や売店、喫茶などにかけられるように支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の所持はしていないが、外出時など能力に応じて支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話の介助、取り継ぎを実施している。年末には年賀状を書いていただき家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度の調整、換気に配慮している。季節の花を飾ったり、利用者と共に作成した季節ごとの壁絵などを飾り季節感を演出している。	季節の花を飾ったり新聞、市政だよりを誰でも見られるようにしている。毎月季節に合わせた壁絵など作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の席が大体決まっており「いつもの席」に座っていただくようにしている。利用者同士の関係性に配慮して席の工夫をしている。また、ソファを置き一人で過ごせる場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具を使用し、時計、写真など見慣れたものを配置して、安心して過ごせるよう工夫している。	馴染みの置時計、家族写真、ぬいぐるみなど安心して過ごせるように希望の物を持参して貰っている。身体状況に合わせてベッドや整理筆筒の配置をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人に合わせたベッド、家具の配置をしている。場所の認識が出来るようトイレ、浴室のドアの色を変えるなどの工夫がされている。		